

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 大里南 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一

### 1. 調査の目的

(1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習

状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

(2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語，算数）

主として「知識」に関する問題（A）	主として「活用」に関する問題（B）
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用でき</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査（国語A・B，算数A・B）の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.4	70	5.6	56	12.1	76	5.8	45
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

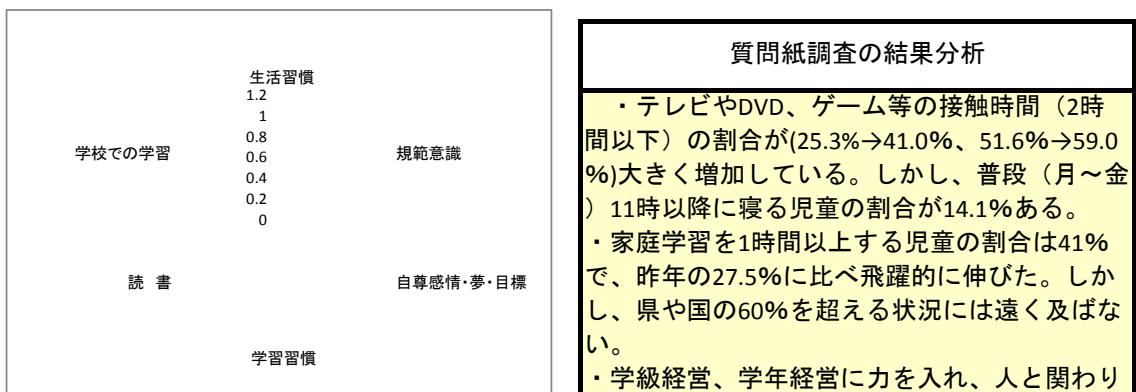
国語A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を4ポイントも下回ったが、昨年と比べると5ポイントも上回った。・特に、漢字に対する読み書き等、基礎的基本的な力を伸ばしつつある。・反面、ローマ字の読み書きについて、大いに課題を残した。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	漢字を正しく読む、目的に応じて図と表とを関連付けて読む問題は正答率が高い。	
	努力が必要な問題	ローマ字を書く、正しく読む問題は、無答率が25～30%もあり、正答率も20～30%台と非常に低い。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を3ポイント下回った。・特に、自分の考えを書いたり、自分の考えを明確にして読んだり、相手の展開に沿って質問したりすることに課題がある。・一昨年、昨年、と徐々に正答率を伸ばしている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	目的に応じて本や文章を比べて読むなど、効果的な読み方を工夫する問題の正答率が高い。また、目的に応じて質問したいことを整理したり、質問の意図をとらえたりする問題の無答率は0であった。	
	努力が必要な問題	目的や意図に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む問題、自分の考えを書く問題正答率が低く、無答率は15～20%もあった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をわずかに下回った。また、昨年度の本校平均正答率を0.5ポイント下回った。・数と計算においては無答率0が多く、基礎的な計算力が付きつつある。・数量関係についての知識理解に課題が残る。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	末尾の位のそろっていない小数の加法、除数と被除数に同じ数をかけても小が変わらないことを理解している問題の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	1を超える割合を百分率で表す場面において、基準重と比較重の関係を理解する問題の正答率が34.6%と低い。さらに、無答率も5%ある。単位量当たりの大きさの求め方の無答率も10%を超えている。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を1ポイント上回ることができた。応用問題に対して粘り強く考え、全体的に無答率が減少している。・数量や図形についての知識理解・技能において力を伸ばしている。・式や数量の意味、正しくない理由等の記述問題の無答率が	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	正方形に内接する円の半径について理解している問題の正答率が83.3%と高い。	
	努力が必要な問題	示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさをもとに式の意味を記述できる問題の正答率は1.3%、無答率は39.7%である。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概



### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

・朝の学習タイムに基礎的基本的な力【読む・書く・計算する】を、児童の実態に応じた問題させることを通してつけている。・個人思考【自分の考えを持つ】⇒集団思考【考えを深める】を、1時間の学習の流れに位置付けるようにする。・めあて、まとめを必ず板書し、ノートは見開き

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・毎日、どの学年も必ずプリント1枚【表裏 算数・国語】の宿題を出す⇒全保護者に周知済
- ・宿題プリントはその日のうちに○をつけ、やり直しをさせ、返す。宿題忘れも必ずその日のうちにさせ、提出させる。・手本となる自主学習ノートを掲示するなどして、発展的な学習とその仕